

2024年度事業計画

2024年3月25日

学校法人 金城学院

目 次

I	2024 年度事業計画の策定にあたって	2
II	金城学院大学	10
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進	
	■学生支援の推進	
	■学生の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■研究成果の社会への還元	
	■生涯学習	
	■産学官連携、地域連携	
III	金城学院高等学校及び金城学院中学校	15
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義による全人教育の推進	
	■生徒支援の推進	
	■生徒の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■産学官連携、地域連携	
IV	金城学院幼稚園	18
1	教育研究の推進と学習支援	
	■キリスト教主義に基づく全人教育の推進	
	■園児支援の推進	
	■園児の受入の推進	
	■教学マネジメント体制の推進	
2	地域社会との共生	
	■産学官連携、地域連携	
V	法人部門	23
1	環境整備	
	■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備	
2	健全経営の維持	
	■財政基盤の強化	
	■ガバナンス	
	■ブランド力向上	
VI	予算概要	25
1	予算編成方針	
2	主な事業別予算	

I 2024年度事業計画の策定にあたって

金城学院は、1889年（明治22年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言1：7）」をスクールモットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「社会に参画し、主体的に生きる女性の育成」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

創立以来134年の長きに亘って積み上げられた伝統は、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、創立130周年以降の本学院の中・長期的な計画については、5年のスパンで企画・立案することとし、創立140周年に向けての第一段階として、「金城学院中期計画（2020年度～2024年度）」（次頁参照）を策定した。中期計画は、常に学院全体の組織・機構についての客観的な評価を実施し、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来をしっかりと展望しつつ、教育・研究における質的向上の不断の努力を今後も続けていくための指針でもある。

そして、この中期計画を実現させるために、5年計画の5年目となる2024年度に取り組むべき具体的な課題を、事業計画として取り上げている。

少子高齢化の進行、学校間競争の激化等、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきているが、金城学院は、そうした様々な社会の変化と、その要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、大学・高等学校・中学校・幼稚園に至る各学校及び法人において、様々な教育制度の改革や、経営の改革を積極的に推し進めていく所存である。

《資料》金城学院中期計画（2020年度～2024年度）

1 教育研究の推進と学習支援

大学アクションプラン

■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進

1 キリスト教主義に基づく全人教育

- ① 礼拝出席の奨励
- ② 学生の企画・参加型礼拝の実施
- ③ 近隣教会への出席の奨励
- ④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備
- ⑤ 教職員に対する修養会及び学生向バイブル・キャンプの充実

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

- ① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進
- ② リーダーシップ教育の推進
- ③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進

3 国際理解の教育

- ① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加
- ② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善
- ③ 金城コア科目における英語及び外国語科目の整備
- ④ 学内環境における多言語化の推進

4 研究の推進

- ① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励
- ② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進
- ③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究

■学生支援の推進

1 教学面での支援

- ① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築
- ② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立
- ③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善

2 生活面での支援

- ① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実
- ② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備
- ③ 学生のマナー向上の推進
- ④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実

■学生の受入の推進

1 質の高い学生の確保

- ① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備
- ② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立
- ③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討

2 高大連携、接続

- ① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充
- ② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化

■教学マネジメント体制の推進

- ① 全学的な内部質保証体制の整備と運用
- ② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施
- ③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立
- ④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善
- ⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化
- ⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上
- ⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立
- ⑧ 定期的な授業評価の実施とVOX POPの作成・公表による教育力の向上

中学校・高等学校アクションプラン

■キリスト教主義による全人教育の推進

- ① 生徒の企画・参加型礼拝の実施
- ② 近隣教会への出席の奨励
- ③ キリスト教教育実施体制の再構築
- ④ 幼中高教師修養会の充実
- ⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励
- ⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し
- ⑦ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応

■生徒支援の推進

1 教科教育の研究・充実

- ① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す授業改善の推進
- ② 高等学校新学習指導要領の新教科「理数探究」「論理表現」の研究開発
- ③ 6年一貫カリキュラムの推進
- ④ “Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」の育成
- ⑤ 英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究の充実

- ⑥ 中高大共同研究の推進。中高“Dignity”ルーブリックと大学「ディプロマ・ポリシー(DP)ルーブリック」に連続性を持たせ、大学卒業後に社会で活躍するための汎用的能力を身につけさせる。
- ⑦ 2020年度に中学1年から高校1年にタブレットを導入する。これによって生徒の探究活動、ポートフォリオ作成、家庭学習の充実を図る。
- ⑧ 観点別評価の研究

2 カリキュラムマネジメントの推進

3 中高連携した進路指導体制の整備・充実

- ① 生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するため、新しい時代に相応しいキャリア教育の推進
- ② 入試の多様化について情報収集し、対応方法等を検討
- ③ 調査書及び指導要録の様式の改定

■生徒の受入の推進

- ① 入試研究部における中学入試改善の研究
- ② 英語利用入試の内容検討
- ③ 思考力を測定する入試の研究
- ④ 金城サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証
- ⑤ 企画広報室を中心に広報活動の充実

■教学マネジメント体制の推進

1 カリキュラム研究部における探究力育成の研究

- ① 教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援
- ② 「科学的思考」「表現」「協働」の3つの力が、教育プログラムによって発展・育成されたか効果測定を行なうための教科ルーブリックの作成
- ③ 教育課程表の形式の改善
- ④ 21世紀型学力の研究開発
- ⑤ アドミッション、カリキュラム及びディプロマの各ポリシーの作成
- ⑥ 生徒の多様な学習成果や活動の評価方法の研究・開発

2 探究学習や観点別評価に対応するための教師研修会の実施

幼稚園アクションプラン

■キリスト教主義に基づく全人教育の推進

1 キリスト教主義に基づく全人教育

- ① 教育スローガン「愛され、育ちあう。」の実践
- ② キリスト教幼児教育に基づく教育課程の実践と検証
- ③ 礼拝を通し「聖話、聖句、讃美、主の祈り」等を幼児の心に刻み、神の愛を身近に感じながら自己に与えられた力を活かしつつ、他者と共に生きる感謝と喜びを知っていく。
- ④ 園児の教会出席の推奨

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

- ① 主体的な活動を重視した教育の実践
- ② 異年齢クラス編成による教育の充実
- ③ 主体的活動と連動させた年齢別活動やクラス活動の充実
- ④ カリキュラムの検討、行事の見直しや改善
- ⑤ 魅力ある園庭作りと整備

3 国際理解の教育

- ① 「英語であそぼう」の教育活動や大学留学生との交流等を通し、言語、文化、考え方の違い等に気付き多様性を学ぶきっかけとする。
- ② クリスマス献金やバザーによる支援金等を通し、国内外の状況を知り、自分達にできることを考える機会とする。

■園児支援の推進

1 教学面での支援

- ① 主体的な遊びを促すための、環境設定や素材の充実
- ② 個別支援記録の活用と改善
- ③ 保護者と教員との連携強化
- ④ 小学校や療育機関との連携

2 生活面での支援

- ① 基本的な生活習慣確立のための環境設定の検証と改善
- ② 保護者との定期個人懇談会、日常の情報交換の強化

■園児の受入の推進

1 園児の確保

- ① 幼稚園説明会、幼稚園体験会の充実
- ② 未就園児の幼稚園見学、園庭開放の拡大と充実
- ③ 2歳児プレ幼稚園の充実

- ④ ホームページの充実
- ⑤ KIDS センターとの連携強化

■教学マネジメント体制の推進

1 教育体制

- ① チーム保育の充実
- ② 支援児担当教員の配置及び連携
- ③ 療育機関との連携
- ④ 2022 年度幼稚園設立 50 周年を機に教育体制の見直しと強化
- ⑤ 大学各学科の学生・教員との連携

2 教育力向上

- ① 研究会参加
- ② 公開保育、園内外研修への積極的参加による質の高い保育強化

2 地域社会との共生

大学アクションプラン

■研究成果の社会への還元

- ① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信の一層の促進
- ② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元

■生涯学習

- ① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践
- ② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築

■産学官連携、地域連携

- ① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進
- ② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進

中学校・高等学校アクションプラン

■産学官連携、地域連携

- ① キャンパスの地域への開放
- ② 地域奉仕活動への参画

幼稚園アクションプラン

■産学官連携、地域連携

- ① 大学との連携強化
- ② 発達支援児やアレルギーを持つ子どものための療育機関や病院との連携
- ③ 地域の方へ行事参加案内、花の日やクリスマスを通し感謝を表す計画

3 環境整備

法人アクションプラン

■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備

- ① KMP21 大学第3フェーズ実施に伴うE1棟竣工及び周辺外構整備
- ② E3、E4、E5、W5号館解体に伴う跡地の有効な計画の策定と実施
- ③ 新学部開設に伴う学習環境整備

4 健全経営の維持

法人アクションプラン

■財政基盤の強化

- ① 合理化・効率化による収益性向上
- ② 安定的な資産運用・活用
- ③ 財源多様化による収入基盤の強化

■ガバナンス

- ① 理事会・評議員会・監事機能の強化
- ② 情報公開の推進

■ブランド力向上

- ① 戦略的広報活動の推進
- ② 卒業生との繋がりの強化

II 金城学院大学

本学は、「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、多様化する社会で主体的に生きる強さと思いやりの心を兼ね備えた品格ある女性の育成を目指すものである。学院中期計画（2020年度～2024年度）に基づき、福音主義キリスト教による全人教育の強化を始めとした教育・研究の推進と学生支援を行ない、また、同時に教育・研究の成果を社会に還元するための地域社会との共生にかかる事業を展開すべく、各項目にアクションプランを設定した。このアクションプランに基づいて、本学の内部質保証推進会議または教育課程編成会議が指定した関係部門を中心に年次計画を以下のように策定した。

1 教育研究の推進と学習支援

■キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進

1 キリスト教主義に基づく全人教育

① 礼拝出席の奨励

様々な形の礼拝を学生、教職員に提供するとともに、メール配信、Manaba ニュース機能などで積極的な出席を呼びかける。

② 学生の企画・参加型礼拝の実施

KCF（金城クリスチャン・フェローシップ）とKBS（金城バイブルスタディー）の学生を中心に広く声を掛け礼拝や諸々の行事に協力を呼びかける。

③ 近隣教会への出席の奨励

金城台と配信をさらに充実させる。大学広報と協力し学内外に発信しキリスト教センターの働きをより多くの方に知って頂く。また、多くの近隣教会やイベントを適時紹介する。

④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備

教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果を踏まえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

⑤ 教職員に対する修養会及び学生向けバイブル・キャンプの充実

教員キリスト教セミナーは100%の出席率を目指し継続する。軽井沢バイブル・キャンプも内容を充実させ実施する。メール配信やHPで事前の宣伝や奨励を学生や教職員に機会があることにする。

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進

教育課程編成会議が、大学教務委員会及びマルチメディアセンター等教学関係センターに対し、前年度の活動成果を踏まえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

② リーダーシップ教育の推進

教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果を踏まえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進

図書館の利用状況に関し、来館を伴うサービス、来館を伴わないサービスそれぞれについて情報を収集、整理し、利用者のニーズに応じたハイブリッド型サービスを実施する。

3 国際理解の教育

① CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善

② 金城コア科目における英語及び外国語科目の整備

①～②については、教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果を踏まえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

4 研究の推進

① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励

研究推進マネジメント体制の基本となる、研究推進・地域連携に関する方針を策定する。

② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進

研究推進マネジメント体制の基本となる、研究推進・地域連携に関する方針を策定する。

③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究

新たに開設する研究推進・地域連携センターにおいて、地域社会支援プログラムの開発・研究に取り組む。

■学生支援の推進

1 教学面での支援

① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築

② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立

③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善

①～③については、教育課程編成会議が、大学教務委員会に対し、前年度の活動成果を踏まえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

2 生活面での支援

① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実

大学学生生活委員会では、大学学生生活委員会から学部教授会を經由して各教員に伝達される各種情報の精査（内容や方法の見直し）と、K-port を活用した学生への直接的な情報伝達の推進。看護学部自己評価委員会では、就職支援および医療機関等の説明会、イ

ンターンシップ、社会人としてのマナー、キャリアデザイン形成等に関する2024年度の活動を計画し、実行する。

② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備

「金城学院大学地域交流ボランティア」(クラブ、サークル)への参加奨励を継続し、各種要請への応答について積極的な助言を行なう。

③ 学生のマナー向上の推進

大学学生生活委員会では、学生会の主導によるキャンパスライフ向上プロジェクト『変えるのは、わたしたち』への助言等を通じて、学生全体の相互支援志向の醸成と態度の定着を図る。看護学部自己評価委員会では、1年次学生には、社会人としてのマナーを身につけるための講習会、2年次学生には看護職としての倫理観と行動を身につけるための講習会を設ける。

■学生の受入の推進

1 質の高い学生の確保

① 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討

総合型選抜入試導入の初年度となる2025年度入試の実施に向けて入試体制を整備する。

2 高大連携・接続

① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充

2023年度から始まった中高大教員交流会を引き続き計画・実施して、各校の魅力・課題等を情報共有すると共に、コロナ禍により中断していた取り組みも含め、20以上にわたる中高大教育協議会事業を通して中高大の相互理解を深める。

■教学マネジメント体制の推進

① 全学的な内部質保証体制の整備と運用

集約した研究科・学部のFD活動を分析し、現状の課題を明らかにするとともにFD活動の体制整備を図る。

② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施

③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立

④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善

⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化

⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上

②～⑥については、教育課程編成会議が、大学教務委員会やIR室等に対し、前年度の活動成果を踏まえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立

教育に関する学科別協議会において検討した方針を踏まえ、各学科で、「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を運用する。

⑧ 定期的な授業評価の実施と VOX POP の作成・公表による教育力の向上

教育課程編成会議が、大学 FD 委員会に対し、前年度の活動成果を踏まえ、当該アクションプランについてのさらなる活動計画の策定を指示し、その内容を実施できるよう支援する。

2 地域社会との共生

■研究成果の社会への還元

① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信の一層の促進

昨夏に国立情報学研究所のリポジトリの新システム移行が完了したことに伴い、新システムにおける適切な管理運営ができるよう問題点の抽出に努める。またリポジトリのコンテンツ充実のため、各部署との連携を強化する。

② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元

心理臨床相談室では、学外の研究会及び学会への参加による積極的交流や、学会及び学術誌等での研究発表を行なうことにより、心理臨床相談室における研究成果を地域社会に還元する。また、相談室を大学院生や相談員が研究及び研鑽に使用しやすい環境に整え、上記の研究成果公表の活発化を促す。KIDS センターでは、2023 年度までの実績を踏まえ、子育て支援活動を通じて、地域社会への研究成果の還元と支援を推進する。また、地域の子育て世帯に対する支援の充実と広く地域社会のニーズに応えるセンターとしての機能を拡充させるために、情報収集・試行・評価を行なう。

■生涯学習

① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践

新たに開設する研究推進・地域連携センターにおいて、生涯学習に関わるプログラムの開発・研究に取り組む。

② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築

学長室会では、2020 年度修了生・卒業生の集いを実施するとともに、集いを起点とした連携関係の構築について検討する。生活環境学部では、隔年で実施されている「野のはな」総会に教員が積極的に参加する。4 年生同窓会幹事と「野のはな」執行部との昼食懇談会への参加を通じて、同窓会運営・活動について恒常的に意見交換できる体制を整える。

■産学官連携、地域連携

① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進

学長室では、地域連携体制の基本となる、研究推進・地域連携に関する方針を策定する。生活環境学部自己評価委員会では、学科や教員が個々に実践している地域・社会貢献活動に関する情報を学部で共有する機会として、毎年開催している FD 報告会の一部をこれに

恒常的に充てる。薬学部自己評価委員会では、2023年度に引き続き、地域等への社会的貢献として、薬学会東海支部などの学会活動、愛知県薬剤師会及び愛知県病院薬剤師会や各種薬剤師研修などの薬剤師活動への協力、地方自治体、地域活動への協力を、コロナ禍以前に近い状況で実践する。特に、第70回日本薬学会東海支部会総会・大会の会場校として貢献する。看護学部自己評価委員会では、「大学コンソーシアムせと」、愛知看護系大学連絡協議会、看護学部臨地実習関連施設等との関係を構築し、地域貢献となる協働活動を計画し、実施する。

- ② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進

地域連携体制の基本となる、研究推進・地域連携に関する方針を策定する。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

2022年度に作成したスクールビジョン「社会に開かれた、わたしをつくるアトリエ」の実現を目標として、引き続き全ての教育活動を実践する。これによって、生徒が卒業時に4つの資質・能力（1 高等教育機関での学びへ円滑に適応するために必要な基礎知識を習得する。2 教科学習及び特別教育活動へ主体的に参加することができる。3 知識を活用して科学的に思考し、表現し、協働することができる。4 将来の自分や社会に対して希望を描き、行動することができる。）を身につけることを目指す。教育活動に係るカリキュラムマネジメントを行い、4つの資質・能力の育成およびビジョンの達成をめざす。

1 教育研究の推進と学習支援

■キリスト教主義による全人教育の推進

① 生徒の企画・参加型礼拝の実施

伝道週間や特別礼拝等を、宗教常任委員会・宗教委員会を中心に、生徒によって企画を立てて行ない、生徒の参加をさらに促していく。特に、春秋にもたれる伝道週間では、引き続き生徒のアイデアを盛り込んでいく。

② 近隣教会への出席の奨励

教会出席奨励日があるが、1年を通して、担任や授業担当者（聖書科を中心に）の協力を得て、引き続き教会への出席を促す。

③ キリスト教教育実施体制の再構築

これまでの中高の一貫教育としてのキリスト教教育の意義を確認し、「礼拝、行事、聖書科授業」の関連性をさらに深める。

④ 幼中高教師修養会の充実

本校の教育の礎であるキリスト教について学ぶ機会として、幼中高教師修養会をさらに充実させる。

⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励

キリスト教学校教育同盟の研修会への参加を促す。さらに、それぞれの年代からの代表が参加していけるようにする。

■生徒支援の推進

1 教科教育の研究・充実

① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す授業改善の推進

「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指すため、授業の改善に努める。

② 6年一貫カリキュラムの推進

次期学習指導要領を見据えて、「Society 5.0」に対応する6年一貫カリキュラムの検討を開始する。

③ “Dignity”を土台とした、全ての教科、教育活動における「探究力」の育成

“Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」を育成する。

④ 中高大共同研究の推進。

中高大共同でアントレプレナーシップ教育のためのワークショップを運営する。これによって自分の頭で考え、行動し、新たな価値を作り出せる人材を育成する。

⑤ 観点別評価の研究

学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況がどのようなものであるか、生徒の学習状況を観点ごとに分析的に捉えて評価し、そして評定に結び付けるために、効果的な観点別評価の在り方について引き続き研究する。

高校では二年目の運用状況を検証しつつ、今後も学習評価の改善を図り、指導と評価の一本化の充実を引き続き図っていく。

2 カリキュラムマネジメントの推進

教育目標を達成するために編成・計画された全ての教育活動が有機的に結びつき、かつ効果的に実施されているかどうかを引き続き評価して、教育活動を改善していく。

3 中高連携した進路指導体制の整備・充実

① 生徒一人ひとりの目標の実現を支援するため、新しい時代に相応しいキャリア教育の推進

進路指導が単なる知識・技能の習得度に基づく指導に留まることなく、多面的・総合的な評価に基づき、生徒一人ひとりの目標の実現を支援する。

② 入試の多様化について情報収集し、対応方法等を検討

大学入試制度の変更や入試の多様化について、情報収集し、早めの準備やその対応方法等を提案する。

③ 調査書及び指導要録の様式の改定

調査書及び指導要録の様式を、新学習指導要領に基づき改定する。

■生徒の受入の推進

① 中学入試改善の研究

2021年度から導入した英語利用入試と2022年度から導入した思考力入試の実施を踏まえ、問題作成・口頭試問・実施方法の改善と、それぞれの入試で入学した生徒の成績等の追跡調査を引き続き行なう。

② 金城サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証

金城学院サポート奨学金ジュニアハイの効果を引き続き検証する。

③ 企画広報室を中心に広報活動の充実

塾等の主催する入試研究会への積極的参加、入試情報誌の閲覧、ホームページなど広報活動の実施等を引き続き行なう。

■教学マネジメント体制の推進

1 探究力育成の研究

- ① 教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援
教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発を引き続き行なう。
- ② 21世紀型学力の研究開発
21世紀型学力の研究開発を引き続き行なう。
- ③ 生徒の多様な学習成果や活動の評価方法の研究・開発
新たな評価方法の研究・開発を行ない、生徒の多様な学習成果や活動を評価する方法に引き続き転換していく。

2 教師研修会の実施

- ① 問う力とリフレクシオン力について
問う力やリフレクシオン力の指導力を高めるために研修会を実施する。
- ② 次期学習指導要領と未来の学校について
次期学習指導要領が示す学力観とスクールビジョンの観点から学校のあり方について対話する研修会を実施する。

2 地域社会との共生

■産学官連携、地域連携

- ① キャンパスの地域への開放
 - ・東区主催「歩こう！文化のみち」等での施設・設備の開放と活用機会の提供
 - ・施設・設備の利用法の見直し
- ② 地域奉仕活動への参画
 - ・東区主催「歩こう！文化のみち」、東法人会主催「早咲き！桜みちまつり」への積極的参画と奉仕活動
 - ・社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動
 - ・病院・刑務所・福祉施設等への慰問
 - ・音楽系クラブによる演奏奉仕

IV 金城学院幼稚園

2024年度、本園は50周年記念事業等を通し明確になった教育内容の特色(キリスト教を礎とした「主体的で対話的な深い学び」の保育)を言語化、視覚化し、さらなる保育の質向上のため、具体的な実践に取り組んでいきたい。

発達に関して多様な子どもが増えている中、専門機関や療育施設との連携を深め教育体制も整えていく必要がある。また、3年間の新型コロナウイルス感染拡大状況の中で2024年度入園の親子も乳児期の子育て期の大半をマスク着用、行動制限等の中で過ごしており親子共々社会経験が少ない状況である。新たな保護者支援の必要性と支援の在り方も問われている。

本園の教育方針を活かしつつ、今まで以上に孤立しがちな子育て世代のニーズに応え、キリストの愛の基、子ども・保護者・教員が互いに育ち合うことを目的として、2024年度も引き続き教育スローガン「愛され、育ちあう。」を掲げ、より質の高い幼児教育に取り組み、キリスト教幼児教育推進のための教育事業を推し進めていく。

また確実な園児獲得のため、未就園児対象の事業に今まで以上に取り組む。

1 教育研究の推進と学習支援

■キリスト教主義に基づく全人教育の推進

1 キリスト教主義に基づく全人教育

① 教育スローガン「愛され、育ちあう。」の実践

神に創造されたかけがえのない一人ひとりとして活かされている感謝と喜びを、遊びや生活を通し実感できる教育のため、本学院主題聖句及びキリスト教保育連盟2024年度聖句に基づきカリキュラムを組むものとする。

② キリスト教幼児教育に基づく教育課程の実践と検証

教育課程に基づく年間指導計画・月案・週案・日案作成において、年間聖句とキリスト教保育の年間目標を意識化し、教育に当たる。また、毎月の評価と改善に努める。

③ 礼拝を通し「聖話・聖句・讃美・主の祈り」を幼児の心に刻み、神の愛を身近に感じながら、自己に与えられた力を活かしつつ、他者と共に生きる感謝と喜びを知っていく。

具体的には、毎月の聖句暗唱・讃美歌・聖話は、天地創造からキリストの降誕・イエスの生涯・十字架の贖罪・復活と昇天を、年間カリキュラムに組み入れ繰り返し伝える。3学期には全園児で主の祈りを覚える。

④ 園児の教会出席の推奨

教会出席のきっかけ作りとして、夏休み・春休み等に教員が交代で子どもたちと共に地域の教会へ出席をする。

2 自ら課題を発見し、解決できる教育

① 主体的な活動を重視した教育の実践

子どもが自ら身近な環境に興味を持って関わり、試行錯誤しながら意欲的に遊ぶための環境設定を日々行ない、遊びを通して「人生を主体的に切り拓く力」を育む。

② 異年齢クラス編成による教育の充実

3・4・5歳児が受け入れ合うことを通し、発達段階に沿って自己発揮できるように促す。また、満3歳児に関して入園時期の違いを鑑み、個の発達を十分見極めたうえで、3学期からはスムーズな進級をめざし異年齢クラスに加わり生活する。

③ 主体的活動と連動させた年齢別活動やクラス活動の充実

主体的活動における集団や個の姿を把握しつつそこで生み出された遊びに着眼し、年齢別活動やクラス活動に繋がりを持たせながら課題に取り組む。

④ カリキュラムの検討、行事の見直しや改善

学期ごとに教員間でカリキュラムの振り返り検討会を行ない、カリキュラムマネジメントの強化に努める。また、そのことにより各行事が慣習として行なわれるのではなく、子ども達の実態に沿ったものであるかの検討を行なっていく。

⑤ 魅力ある園庭作りと整備

保護者の協力も得ながら園庭をさらに整備し、遊び場としての園庭が子ども達の創造性や科学する目をより刺激する場となるよう、環境の再構築を行なう。また長期的な視野に立った整備、安全点検を行ない、研究を重ねる。

3 国際理解の教育

① 「英語であそぼう」の教育活動や大学留学生との交流を通し、言語・文化・考え方の違いに気付き多様性を学ぶきっかけとする。

自由活動・年齢別活動・クラス活動への英語活動の取り入れ方を検討し、全ての子が英語の環境に触れることを通し、自国・他国への言語や文化への興味関心を深めるようにする。

② クリスマス献金やバザーによる支援金を通し、国内外の状況を知り、自分達にできることを考える機会とする。

年長児を中心に話し合いや情報を子どもなりに収集し、掲示や発表を通して世界に目を向け、国際平和や環境問題に関心を持つ。

■園児支援の推進

1 教学面での支援

① 主体的な遊びを促すための、環境設定や素材の充実

子ども達の遊びの発展性を見取り、必要なコーナー・素材の設定を毎日行なう。また、廃材収集のため保護者に協力を得る。

② 個別支援記録の活用と改善

発達障がい児について、月毎の振り返りを基に次月のねらいを立案、全教員での検討会を行なう。年長児の個別支援記録（リレーシート）を小学校への引継ぎと連携に活かす。

③ 保護者と教員との連携強化

登園時・降園時の情報交換に加え、現行の個人懇談会・クラス懇談会・園長とおしゃべり会等を定期的に行ない、子どもの成長や課題・保護者自身の子育ての悩み等について話す機会とする。また、保育に参加できる「お手伝い父さん母さん」や園庭開放・休日の動植物の当番等、有志で参加できる機会を作り、保護者の子育て支援としての要望に応えていく。

④ 小学校や療育機関との連携

地域の小学校（大森小・大森北小・小幡小・小幡北小）との懇談会を定期的に行ない、就学児童や入園予定児に関する情報交換を行なう。療育機関とは個別支援児に関する相談や訪問を行ない、また来園していただき密に連携をとる。

2 生活面での支援

① 基本的な生活習慣確立のための環境設定の検証と改善

集団生活における身のまわりに関することの自立、そのための動線の検証、保護者の協力体制を強化する。

② 保護者との定期個人懇談会、日常の情報交換の強化

個々の課題や子育てに関する相談をもとに、保護者との信頼関係を深め、園と家庭でのその子の成長を支援する。

■園児の受入の推進

1 園児の確保

① 幼稚園説明会・幼稚園体験会の充実

入園説明会は6月から9月間に5回程度計画し対面で行う。コロナ禍で行なったWeb説明会も合わせ、ホームページやドキュメンテーションを更新して視覚に訴える説明を重視する。また個別でも対応していくことで丁寧な案内に努める。

② 未就園児の幼稚園見学・園庭開放の拡大と充実

園庭開放事業やKIDSセンターとの連携により幼稚園を開放することで入園に繋がる取り組みを企画し行なう。未就園児対象の「こすすめの会」を年間60回程度開催予定。その中で参加者には個別で声かけをしていく。7月末～から8月1週目にかけては「こすすめの会プール遊び」として10日間程度行ない、親子に水遊びを楽しんでもらいながら園庭や環境の良さを感じてもらおう。

③ 2歳児プレ幼稚園の充実

2歳児親子プレ幼稚園事業を通し、確実な入園児獲得につなげ、広報活動の一端とする。具体的には参加者数を拡大し、3歳児保育への優先入園枠として募集する。5月～9月にかけて毎月3回、計12回程行なう。在園児との自由活動体験、親子集団遊び等を実施する。

④ ホームページの充実

各募集のアップ・入園への情報・子ども達の遊び等をこまめに更新することで情報提供とPRを充実させる。動画等新たな情報の出し方も検討する。

⑤ KIDS センターとの連携強化

入園予定者の7割以上がKIDS センター利用者であることから日常的な交流、連携を深めていく。KIDS センターにおいて園職員が子育て講座を実施したりKIDS センター主催「ようちえんへおさんぽに行こう」の受け入れ(年間6回程度)、園の行事(運動会、焼き芋パーティーなど)に参加してもらうなどの相互交流の企画を実施、園庭開放やプレ幼稚園参加、入園につなげていく。

その他、幼稚園においてKIDS センタースタッフの研修や連携会議、また新たな共催の子育て講座などの実施を検討していく。

■教学マネジメント体制の推進

1 教育体制

① チーム保育の充実

自由活動時に関わった子ども一人ひとりの姿や遊び、クラス活動や年齢別活動での様子等の記録を共有し話し合い、カリキュラムマネジメントに努める。

② 支援児担当教員の配置及び連携

特別支援児補助金での支援教諭の配置、個別支援記録に基づく全スタッフ会議での定期的検証に努める。

③ 療育機関との連携

大学心理臨床相談室・支援児が通う療育機関との情報交換や園内研修、また、訪問等を通し、連携を図る。

④ 幼稚園設立50周年を機に教育体制の見直しと強化の継続

本園の教育方針やカリキュラム編成等を振り返り、今後の教育体制について園内研修や研究会を通し確認や検討を行なう。

⑤ 大学各学科の学生・教員との連携

現代子ども教育学科生・英語英米文化学科生・大学院生の実習とゼミ演習授業の受け入れ、自主実習生受け入れや留学生との交流を行なう。また、各学科の教員との交流を通し、学生や園児の教育活動につなげていく。

2 教育力向上

① 研究会参加

保育学会・キリスト教保育連盟主催の研究会等に積極的参加する。

② 公開保育・園内外研修への積極的参加による質の高い保育強化

他園からの見学依頼や研修依頼が多く、今後も研修の場として積極的に園を公開し保育研究活動を実施していく。

2 地域社会との共生

■産学官連携、地域連携

① 大学との連携強化

大学各学科の学生受け入れと、大学教員との連携強化に努める。

② 発達支援児やアレルギーを持つ子どものための療育機関や病院との連携

各専門機関との連携により、園児への細やかな教育的配慮や危機管理体制の強化に努める。

③ 地域の方へ行事参加案内、花の日やクリスマスを通し感謝を表す計画

子ども達が案内を作成したり訪問をしたりすることにより、日頃の感謝を表す等近隣の方やお年寄りとのふれあいの機会を設ける。また、年長児が中心となって守山区社会福祉協議会主催の事業に参加する。

V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行なう様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や、多様化するニーズに 대응することができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革の推進を、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画に基づく法人部門の2024年度事業計画としては、次の2点を掲げてその取り組みを進める。

1 環境整備

■新たな教育・研究活動等に対応した環境整備

① 学習環境整備

キャンパス全体の整備計画が完了したことに伴い、今後さらなる学習環境の向上ができるよう、下記を推進する。

- ・2004年度策定、2014年に改訂された中長期修繕計画の継続的なブラッシュアップを行ない、今後予想される学生数の変動を考慮した有効な修繕計画の改定に着手する。
- ・看護学部開設3年目に伴い、学生動線などについて引き続き検討する。

2 健全経営の維持

■財政基盤の強化

① 定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分「BO」の厳守

「教育活動資金収支差額比率」の目標値をプラス1%~2%とする。

下記を推進することにより、2024年には2019年度に対して1億円の収益増を目指す。

② 合理化・効率による収益性向上

業務プロセスの再構築や管理体制の見直しなどを行ない、経費を削減する。

③ 財源多様化による収入基盤の強化

遊休土地の活用や保有建物の有効利用等により、新たな収入を確保する。

■ガバナンス

① 理事会・評議員会・監事機能の強化

2025年4月の私学法改正に向けて、2024年度中に金城学院寄附行為の変更申請を行なうが、特に、理事選任機関をどこにするのか、評議員・監事のクリスチャンコードを一部外すのか、などを慎重に議論した上で、寄附行為改正案を作成し、評議員会・理事会の承認を得る。

② 情報公開の推進

情報を積極的に開示・公開する。

■ブランド力向上

日経 BP 大学ブランド・イメージ調査東海版において、総合ブランド力有職者編、学生の父母編、教育関連従事者編それぞれの項目において 10 位以内を目指す。

① 戦略的広報活動の推進

若年層の本学へのイメージ向上を目指した SNS の運用を行なう。

② 卒業生との繋がり強化

みどり野会との連携を強化し、金城学院アプリの登録区分「卒業生」の利用者数を前年比で 10%増加させる。

VI 予算概要

1 予算編成方針

① 収入関連

学生生徒納付金収入は、入学者数予測に基づいて算出、退学・休学想定率を2%とする。補助金収入は、前年度実績の90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

② 支出関連

健全財政の確保を目的として、収入規模に見合う支出予算編成とする。2024年度の継続経費は、「2023年度規模に対する5%程度の経費の抑制」を目指す。また、緊急性、必要性、有効性等の観点から事業の優先順位を見極め、優先順位の低い事業については慣例にとらわれることなく、縮小、延期、休止、廃止を検討し予算化していく。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2024年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
防災	・緊急地震速報配信システム運用点検	220
教育設備 充実事業	(大学) ・SGデータベースサーバ更新 ・プリンタ管理システム購入費 等	255,528
	(高等学校) ・世光館アリーナ空調工事 等	
	(中学校) ・体育館空調工事	
修繕事業	(大学) ・W1棟設備・機器年次更新改修費 ・2023年度年次点検による是正工事 等	94,110
	(幼稚園) ・樹木剪定工事	
広報事業	(法人) ・ブランド構築 等	126,987
	(大学) ・特別入試広報費 等	
その他	(大学) ・第4期中期計画策定における業務支援 等	64,941
合計		541,786